

修士論文（要旨）  
2021年 1月

職場における呼称の日韓対照研究  
—ジェンダーの視点から—

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻  
219J3001  
李 炫周

Master's Thesis(Abstract)  
January 2021

How to Address People in Workplaces: A comparative Study between  
Japan and Korea from the Perspective of Gender Studies

LEE HyunJoo  
219J3001  
Master's Program in Japanese Language Education  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Fumihiro Aoyama

## 目次

第1章 はじめに	1
1.1 研究背景	1
1.2 研究目的	2
第2章 先行研究	2
第3章 調査概要	5
3.1 アンケート調査	5
3.1.1 調査対象	5
3.1.2 調査方法および調査内容	5
3.1.3 調査結果および分析	6
3.2 アンケート後のフォローアップインタビューと、その内容	8
3.3 テレビドラマの日韓対照	10
第4章 調査結果および分析	11
4.1 役割から見た呼称使用による社会言語学的分析	11
4.1.1 日本のドラマの場合	11
4.1.1.1 職場の女性話者	12
4.1.1.2 職場の男性話者	13
4.1.2 韓国のドラマの場合	15
4.1.2.1 職場の年下話者	15
4.1.2.2 職場の年上話者	17
4.2 結論	18
第5章 まとめと今後の課題	18

## 資料

## 参考文献

## 要旨

近年、自国を離れ外国で就職する人が増えている。日本では、文部科学省によって策定された「留学生30万人計画」も実施され、外国人の流入が増えたことで、会社内の雰囲気も少しずつ変化している。現在、日本の留学生のうち韓国人が占める割合は、5.7%と非常に高い。また梅田(1977)は、日本語と韓国語は文法や敬語システムが似ていると述べているが、李民(2008)は母語を第二言語でそのまま適用する傾向が見られると述べている。このように、母語をそのまま直訳し、誤った表現を使ってしまう現象は韓国人日本語学習者によく見られる。これは特に会話の中で、呼称を使用する際にもよく見られる。例えば、韓国では相手に敬意を表すために目上の人には実際そうでなくても「社長(사장님[sajangnim])」「先生(선생님[seonsaengnim])」と呼び、目下の人には「若者(젊은이[jeolmeuni])」「青年(청년[cheongnyeon])」と呼びかけをする。呼称には社会的なイメージを与える側面もあるため、どのような呼称を使うかによっては相手に不快感を与えてしまう恐れがある。したがって、呼称を適切に使うことは誤解を減らすことになり、コミュニケーションを円滑に運ぶことができる。

さらに、職場は言語使用者たちが毎日会って話す場所であり、仕事を遂行する中で常にコミュニケーションを取らなければならない。よって、職場は実生活の中で呼称の使用に気をつけるべき環境だと考えられるため、本研究では職場に限定し調査を行う。

また、近年、女性の社会進出が多くなっていることと関係して、韓国の国立国語研究院(2017)からは、社会のあり方の変化による女性の呼称が必要であるという提言が出された。また、池田(2005:167)によると「女性の社会進出に伴い、職場における女性の人数や割合が増え、従来多かった上司・部下の関係とは異なる組み合わせも現れるようになった。新しい人間関係の中で、どのような言葉遣いで接するか、苦心しているようである」という。そのため、本研究では日韓両言語の職場における呼称にはどのような特徴があるのか。ジェンダーにより呼称の使用にはどのような違いがあるのか。について明らかにする。

アンケート調査とドラマ調査を通じて現在の呼称使用実態と日本語と韓国語の呼称使用の特徴がわかった。さらに、呼称使用のジェンダーによる違いと改善点を明らかにした。呼称と敬語の特徴が並行していることもわかった。以上から、ビジネス日本語の教科書には、実際の状況に近い場面を想定した敬語の教育と外国人日本語学習者の母語を考慮したテキストが必要であると提案したい。また、よりジェンダーを考慮した研究が必要であり、それがすぐに教科書に反映されなければならない。

呼称は人間関係に密接な関係があり、その距離をコントロールする機能を持っている。時代の変化によってジェンダー意識が変化し、同時に変化する言語の姿も今後、研究課題として取り扱う必要があると考える。そしてそのような結果が実際の教科書に反映されることを強く望みたい。

## 参考文献

- 池田理恵子(2005)「新聞記事に見る敬語の話題—学校と職場における呼称」『日本語学』24(11), pp. 160-168.
- 井出祥子(1987)「現代の敬語理論—日本と欧米の包括へ」『言語』7.
- 今村洋美(1996)「呼びかけ表現」田中春美/田中幸子編著『社会言語学への招待』ミネルヴァ書房, pp. 113-124.
- 宇佐美まゆみ(2006)「ジェンダーとポライトネス—女性は男性よりポライトなのか?」『日本語とジェンダー』ひつじ書房.
- 梅田博之(1977)「朝鮮語における敬語」『岩波講座日本語』4, pp. 247-270.
- 遠藤織枝(2001)『女とことば』明石書店.
- 小木直美(2016)「日本語と韓国語の人称詞分布に関する一考察」『日本語学研究』48, 韓国日本語学会, pp. 49-64.
- 小矢野哲夫(2004)「暮らしの中にひそむ日本語とジェンダー」『日本語学』23(7), pp. 56-63.
- 大野敬代(2003)「人間関係から見た「ほめ」とその工夫について—シナリオにおける「働きかけ表現」として」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』10(2), pp. 337-346.
- 金丸芙美(1993)「人称代名詞、呼称詞」『日本語学』12-06, pp. 109-119.
- 川口義一(2003)「ドラマに登場する人物像—だれが、だれを、なぜほめるか—」『日本語学』22, pp. 54-65.
- 韓美卿/梅田博之(2009)『韓国語の敬語入門—テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較』大修館書店.
- 国広哲弥(1982)「文化と社会」『日英語比較口座』5, 大修館書店.
- 国広哲弥(1990)「呼称の諸問題」『日本語学』9(9), pp. 4-7.
- 小林美恵子(1993)「世代と女性語—若い世代のことばの「中性化」について」『日本語学』12(6), pp. 181-192.
- 小林恵美子(1999)「自称、対称代名詞とその省略—映画『女人四十』に見る—」『ことば』20.
- 桜井多加楽(2018)「韓・日呼称語の対照分析」国民大学大学院国語国文学科修士論文.
- 寿岳章子(1979)『日本語と女』岩波新書.
- 鈴木考夫(1973)「人を表すことば」『ことばと文化』岩波書店, pp. 129-206.
- 鈴木考夫(1982)「自称詞と対称詞の比較」『日英語比較口座』5, 大修館書店.
- 鈴木みどり(2001)『メディア・リテラシーの現在と未来』世界思想社.
- 中山亜紀子(2016)「韓国人日本語教師の現状理解と日本語教育の課題」『佐賀大学全学教育機構紀要』4.
- 長谷川禮子(1991)「日本語における呼びかけ語の使われかた(4)—知らない人に対する呼びかけと親族名称の使用について—」『洗足論叢』20, pp. 1-16.
- 林炫情/玉岡賀津雄/深見兼孝(2002)「日本語と韓国語における呼称選択の適切性」『日本語科学』11, pp. 31-54.
- 三輪正(2005)『一人称二人称と対話』人文書院.
- Braun, F. (1988) *Terms of Address: Problems of pattern and usage in various languages and cultures*. Berlin; New York; Amsterdam: Mouton de Gruyter.
- Buckingham, D.(2001) *Media Education: A Global Strategy for Development, Second Draft*. prepared for UNESCO, March 2001.
- 韓国国立国語院(2011)「標準言語マナー」.
- 韓国国立国語院(2017)「社会的疎通のための言語実態調査」.
- 洪珉杓(2006)「日韓両国人の言語行動の違い(3)職場における呼びかけの日韓比較」

- 『日本語学』25(8), pp. 80-89.
- 姜錫祐(1998)「待遇行動として韓国語における人称表現」『日本語学』17(9), pp. 50-53.
- 金喜叔/王翰碩(2005)「呼称の主要理論と研究視覚」『韓国社会と呼称』亦樂.
- Lakoff, Robin(1973) *Language and Woman's Place*. *Language in Society*, Vol.2, No.1, p. 45-80, Cambridge University Press.
- 李紫娟(2015)「呼びかけの言語行為についての研究」岡山大学学術成果リポジトリ.
- 李民(2008)「韓国語呼称・敬語教育方法に関する研究：中国人学習者を対象に」高麗大学大学院修士論文.
- 劉 寧(2013)「日中両言語における呼称詞についての対照研究：ポライトネス理論の観点から」『東北大学言語学論集』22, pp. 53-68.
- 朴真周(1989)「国語呼称の実像と対策」『言語生活』19.
- 林炫情(2003)「非親族への呼称使用に関する日韓対照研究」『社会言語科学』5(2), pp. 20-32.
- 羅聖淑(1992)「韓国と日本の言語行動の違い—既婚女性の呼称を中心に」『日本語学』11(13).
- Peng, F.C.(1982)「呼称の社会学—日米の比較」『日英語比較講座』5, 大修館書店.
- 宋有宰(2013)「日韓両言語の職場呼称について」『日本近代学研究』40, pp. 91-106.
- 宋有宰(2002)「日韓両言語の親族呼称について—鈴木孝夫(1973)の「虚構的用法第2種」の考察」『金沢大学国語国文』.
- OECD(2019) Gender wage gap (indicator). doi: 10.1787/7cee77aa-en (Accessed on 10 October 2019).
- 兪慧珉(2002)「韓国語と日本語における呼称の対照分析：ジェンダーと待遇度を中心に」慶熙大学大学院修士論文.